

## 「名大・中央図書館」に行く

4年ぶりに「再開」した7月30日のレポートにも書いたが、退職後1カ月は自宅にこもって「仕事」をした。ほとんど歩かないので、どうも調子が悪い。35年にわたる教員生活の大半を大学の研究室で過ごしたので、自宅に閉じこもっての「仕事」になじめず苦勞した。

それで近くの名大・中央図書館を利用させてもらうことにした。若い時なら星ヶ丘から歩いて行ったこともあるが、今は本山まで地下鉄で行って、そこから坂道を歩くのが適当な距離だ。桃巖寺が「癒のスポット」になったのも、こんな事情による。名大の帰りには、本山生協で買い物をすることも多い。



名大図書館は平日朝8時から夜10時まで開館している。土日もすこし短いが、開館しているので便利だ。朝型の私にとっては、8時の開館前に到着することが多い。すると図書館の入口付近には、すでに開館を待つ学生たちが何人かいる。私のような「常連さん」も目につくが、図書館の利用者は、もちろん名大生が大半だが「学外者」も多い。地域に開られた大学図書館として、ありがたく利用させてもらっている。

7月上旬からの4週間は「試験対応期間」として、学外者は利用できなかった。この期間は愛知県図書館や名古屋都市センター、県議会図書室や県・市情報センターなどを渡り歩いた。猛暑の中の「放浪の旅」であった。いろいろな資料を見つけて充実した毎日ではあったが、名大図書館のありがたさを再認識した。

名大図書館の魅力は、自宅からのアクセスや開館時間だけではなく、もちろん蔵書の多さにある。それと写真にある「準個室」のような空間が気に入っている。広い机で落ち着いて「仕事」ができる。「小さな本」の編集作業も、ここにパソコンを持ち込んで集中的に作業をした。



それと入口付近にスターバックスが店を構えており、いつも賑わっていることも注目される。まだ利用したことはないが、開放的な図書館の雰囲気を高めている。お世話になった名市大図書館への重い「思い」を感じるこの頃である。

(2014年8月17日)